

事業区分	文化芸術事業	育成・創造事業
事業名	第2回鳥取県クラシックアーティスト・オーディション【声楽部門】【管・打楽器部門】	
目的・内容	オーディションによって、若手の優秀なアーティストを選抜する。技術研鑽や公演機会の提供等の支援を通じて、鳥取県の音楽文化を将来的に担い、郷土の文化の発展や次世代のために貢献し、影響を与えることができる有能な人材を育成する。 監修/NHK交響楽団 【使命】「多彩な人材育成とキャリア開発」「文化人口の拡大とレベルアップ」 【事業の柱】「人材育成のための機会の提供と各種研修制度の充実」	
開催日時	【声楽部門】 ○第1次選考 平成24年6月30日(土) 開演10:30 審査11:00 終了14:30 ○第2次選考 平成24年10月7日(日) 開演10:00 審査10:30 終了14:20 [審査員:河野克典(声楽家/審査員長)、寺谷千枝子(声楽家)、菅英三子(声楽家)、杉浦晃(N響常務理事)] 【管・打楽器部門】 ○第1次選考 平成24年7月1日(日) 開演10:30 審査11:00 終了15:30 ○第2次選考 平成24年10月8日(月・祝) 開演10:00 審査10:30 終了15:20 [審査員:杉浦晃(N響常務理事/審査員長)、栗田雅勝(N響首席トロンボーン奏者)、山根孝司(N響クラリネット奏者)、久保昌一(N響ティンパニー奏者)]	
会場	とりぎん文化会館 梨花ホール	
参加費	無料	
実施状況	入場者数 [二次選考]	声楽部門 157名 (23%) 管・打部門 306名 (45%)
	参加者数	声楽部門 一次先行 13名 二次選考 5名 最優秀賞:中原美幸(鳥取市出身) 優秀賞:佐々木真由美(倉吉市在住) 管・打部門 一次選考 19名 二次選考 7名 最優秀賞:竹田歌穂/サクソ(鳥取市出身) 優秀賞:堀田理恵/マリンバ(鳥取市出身)
事業費状況	予算額	収入 0円 支出 6,967,000円 収支比率 —
	決算額	収入 0円 支出 4,926,860円 収支比率 —
来場者アンケート (主なもの) [二次選考]	回収率:21%(声楽)・21%(管打),満足度:84%(歌楽)・86%(管打),新規顧客:38%(声楽)・20%(管打) [声楽部門] ・全く個性の違う5名の方の歌を楽しむことができました。夢に向かってどれほどの練習を、思いをつまめたかと思うと感動しました。会場の雰囲気もシンプルで良かったです。 ・このような機会を作れることはクラシックのレベル向上につながります。とても素晴らしい企画です。是非継続してください。 ・普段は交響曲や協奏曲を鑑賞することが多いですが、今日は久しぶりに声楽を楽しみました。県内の方も頑張っている姿に感動しました。広いホールに響く、歌声に“やはり生はいいな”と思いました。 [管・打部門] ・オーディションを初めて聴きました！鳥取にもこんなに音楽を頑張っている若い人がいるのだと、自分の励みにもなります。 ・鳥取にゆかりのある人の中にこんなに素晴らしい楽器奏者の方がたくさんおられて、同じ鳥取県民として誇りに思います。 ・緊張した雰囲気が普段のコンサートと違って、新鮮でいい感じであった。	
1次評価 (内部)	[成果] ・NHK交響楽団に監修を依頼したことにより、プロとして活躍されているトップアーティストの先生方を審査員として迎え、審査に至るまで円滑にオーディション事業を推進することが出来た。 ・今後の受賞者への支援において、NHK交響楽団と連携をとりながらきめ細やかな助言・情報提供などをしていくことで、オーディション事業全体の質の向上を図り、事業を進めていく。 ・アンケート回答者の中には、現在音楽活動をしている高校生等の意見も見受けられた。実際にステージに立つ県出身の若きアーティストたちを目の当たりにすることで、中高生が今後活動していくことへの励みとなり、またそのことが、参加者たちにとっても、自身の意欲的な音楽活動へとつながっていく。 [課題等] ・今後、オーディション事業を継続して行っていくことも視野に入れると、若年層の活動者育成にも目を向けることが必要となってくる。本オーディションが、中高生等の若い活動者にとってひとつの通過点となるような体制を構築し、県内の音楽レベルのさらなる向上につなげていく。そのためには、今後も県内の指導者や音楽関係者、教育機関等と密に連携を図っていくことが非常に大切。 ・県内のクラシック愛好者数は少なくはないが、オーディションのように特殊な形式の公演になると、鑑賞者が激減する傾向にある。アーティストは演奏者の努力だけで育まれるものではなく、鑑賞者・観客の応援があってこそ育っていくものである。今後、県内出身アーティスト育成のプロセスを県民一人ひとりが共有し、見守っていくという鑑賞者側の育成も重要な課題。	
2次評価 (財団評議員)	[成果] ・オーディションの成果、及び演奏のレベルは確実に伸びている。 ・厳正な審査で透明性が保たれた。今後もN響との連携を保ち、全体の質の向上をより一層深めたい。 [課題等] ・入場率の問題について、関心不足は音楽指導者の「認識」の問題もあり。課題克服のため、粘り強い呼びかけを望む。 ・来場鑑賞者について、特に学生や若年層を引きこむことが必要。大学等へのチラシの配布、教育機関との連携は重要。 ・声楽部門では、日本歌曲が散見された。課題曲に日本歌曲を最低一つ加え、鳥取オーディションの特色にしてはどうか。 ・以前行っていた、ファイナル出場者へのコメントの復活を望む。 ・応募者の県外への拡大意見もあるが、鳥取県に還元できる人材育成であり、鳥取県の人材に特化することが事業目的に合致している。 ・財団としての継続的支援の形を模索すること。参加者の指導者との環境も十分に考慮が必要。	
今後の対応、 取組状況	・第1次、第2次選考を通して鑑賞者の少なさを感じるが、オーディションという特殊性を踏まえると、ある程度の鑑賞者を集客することができた。今後アーティストの育成支援が始まることも考え、さらに本事業に興味・関心を持っていただき、県民全体で応援(支援)していける環境を整える。 ・引き続き監修であるNHK交響楽団と密に連携を取りながら人的資源・マネジメント力・知名度等国内トップレベルのノウハウを受け、受賞者支援において指導・助言を行い、鳥取県の音楽文化を将来的に担う有能な人材の育成を図っていく。	